

定例研究会報告

開催日 令和8年9月27日(日) 13時～17時

会 場 埼玉会館3B会議室

参加者 9名(黒澤先生含む)

HPでお知らせしましたように、今回からハイデッガー「存在と時間」(上)(ちくま学芸文庫)の読み込みが始まりました。今回は、第9節「現存在の分析論の主題」から、人間の存在の意味、第15節「環境世界のなかで出会う存在者の存在」から気遣いについて理解を深めました。

黒澤先生は、「存在と時間」の解説書も多くあるが、やはり原典を読むのが一番とおっしゃっていますが、約100年前に刊行された本著「存在と時間」は、ハイデッガー独特の造語が多く、難解で読んでも、読んでも意味不明というのが実感です。

「読書百遍意おのずから通ず」といいますが、ようやくスタートラインに立った感じ です。

「現存在はいつもおのれの可能性を存在しているのであって、それをただ客体的な属性として「持っている」というわけではない。」第9節P110

現存在とは、生きている人間であり、生きている人間を物理的に考えて理解しよう としないことである。と解釈できるわけですが、まだまだ実感がわきません。

介護福祉学や生活支援学を、哲学領域と実証領域、実践領域の三つの領域から考えたとき、黒澤先生は、哲学領域が問う、そもそも生活とは何か、介護とは何か、人間とは何かという原理的思考をハイデッガーの現象学から解明しようとしているのだろうな と、いまさらながら私なりに考えてみました。

大変に的外れな感想ですが、是非皆様も定例研究会にご参加いただき、生活支援学の 核心に迫って頂ければと思います。

次回は12月20日(日)「存在と時間」第26節と第29節を読む予定です。

参加される会員の皆様へ、僭越ですがアドバイスとして、まずは入門書として何か一冊でも目を通してから参加することで理解が進むかと思います。

2026/9/28

事務局長 峯尾武巳